資料５

リーディングプロジェクト

子供を事故から守る環境づくり

子供が
事故から守られ
思い切り
チャレンジできる

子供が成長に応じて、様々なことに好奇心を持ち、
思い切りチャレンジできるよう、
事故が起きにくい環境をつくる。

子供を事故から守る環境づくり

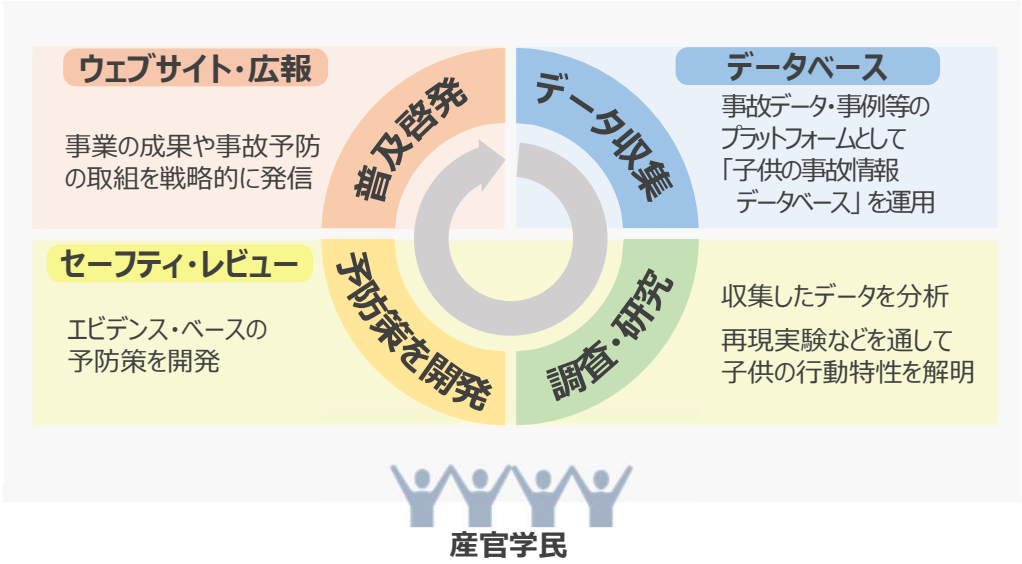
推進チーム　子供政策連携室・生活文化局・都民安全総合対策本部・都市整備局・住宅政策本部・福祉局・保健医療局・産業労働局・建設局・教育庁・警視庁・東京消防庁

「防げる事故」を確実に防ぎ、子供が安心してチャレンジできる社会を実現

- ✓ 事故が起きないよう、**見守るだけでは限界**がある
- ✓ **“変えられるもの” を“変える”**ことで事故を予防できる

例えば…　川で遊ぶときの安全対策

“変えられるものを変える” の視点で事故予防のサイクルを回していく



政策強化の方向

産官学連携による予防策の開発や戦略的な情報発信等により、事故予防のサイクルを効果的に回し、子供の事故が起きにくい環境づくりを推進

1. **子供の事故情報データベースの利活用を促進**
2. **産官学の連携促進による「子供の事故が起きにくい環境づくり」の推進**
3. **エビデンス・ベースの予防策等の戦略的な発信**

今後のアクション

1 子供の事故情報データベースの利活用を促進

データ収集　普及啓発

子供の事故情報データベースの運用（事故情報等データベース構築事業／子供政策連携室）

- 関係局や国等の**関係機関と連携**し、掲載情報・データをタイムリーに更新
- 運用効率とサービスレベルの向上を図るため、データベースの**運用管理業務にAIを活用**
- ユーザーレビューを定期的に実施し、利用者の声を踏まえた運用の見直しを推進

データを活用した普及啓発を推進（セーフティ・レビュー事業／子供政策連携室）

- データベースの認知度向上とデータに基づく確かな情報発信を推進するため、**データベースの情報を基に、事故の傾向と予防策を分かりやすく紹介**する記事コンテンツ等を作成・発信

子供の事故実態の解明を支援（保健医療局）

- 医療機関における子供の傷害データの収集等について、救命現場の専門的見地から助言

2 産官学の連携促進による「子供の事故が起きにくい環境づくり」の推進

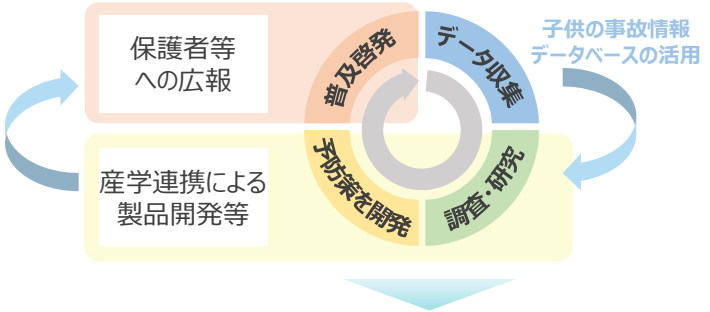
調査・研究　予防策を開発　普及啓発

産学連携による調査・研究や安全安心な製品開発等を支援（子供を事故から守る環境づくり促進事業／子供政策連携室）　新

- 子供の事故が起きにくい環境づくりに向け、子供の事故情報データベースを活用しながら**企業や大学・研究機関等が連携して取り組む研究や製品開発等を支援**
  - 安全な製品づくりにつながる**新たな知見**についての研究
  - より**安全安心な製品の開発・改良**

- こうした取組により開発された製品の情報等を保護者などの消費者に届け、**安全安心な商品選択につなげていく**ための**効果的な広報**を実施

事故予防のサイクル（再掲）



- **産学連携**による調査・研究や安全安心な製品開発等を促進
- 取組の**成果を保護者等に届け、サイクルを効果的に回す**

調査・研究　予防策を開発

安全な製品開発・改良を支援（産業労働局）　拡

- 都における様々な都市課題の解決に資する製品・技術の開発・改良等を支援する課題解決型技術開発促進事業において、**子供の事故予防等の分野における事業者の取組を後押し**

安全な住環境を実現（住宅政策本部）　拡

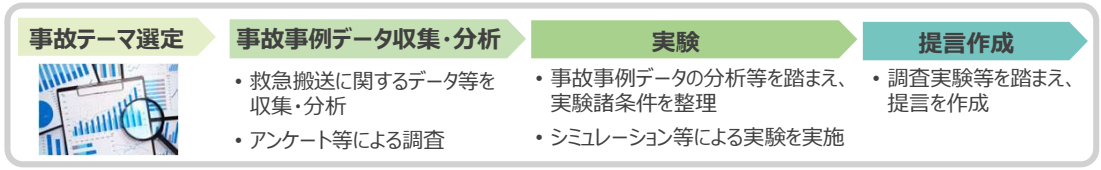
- **東京こどもすくすく住宅**に係る改修物件への取組強化等を通じ、集合・戸建住宅の整備・改修を行う**事業者等を支援**
- 子供の安全確保に係る改修工事を行う子育て世帯を支援する**「子供を守る」住宅確保促進事業**について、対象を集合住宅から戸建住宅にも拡大して実施

東京こどもすくすく住宅

③ エビデンス・ベースの予防策等の戦略的な発信　調査・研究　予防策を開発

事故予防に向けた提言を実施（セーフティ・レビュー事業／子供政策連携室）

- 社会的なトピック等を踏まえ、**具体的な事故テーマ**を選定し、関連するデータや事例の調査・実験等を行いながら、**事故予防のための提言を取りまとめ**



死亡事例を検証（福祉局）

- 子供の死亡事例について、関係機関と連携の上、**子供の死に至る情報の収集、予防可能な要因の検証、効果的な予防策の提案を実施（チャイルド・デス・レビュー）**

製品事故を検証（生活文化局）

- 商品等による危害防止を目的に消費者代表・事業者代表・学識経験者が安全対策について協議（**東京都商品等安全対策協議会**）

予防策を開発 **普及啓発**

暑さ対策の推進（教育庁）

- 屋外で実習活動を行う生徒等の熱中症を予防するため、対象校を拡大し、都立学校に**ウェアラブルデバイスを配備** 拡
- 熱中症予防のための**教員向け研修動画を新たに作成**し、都内の全公立学校に公開 新

子供の事故予防に向けた気運を醸成 拡
（セーフティ・レビュー事業／子供政策連携室）

東京都こどもセーフティプロジェクト

- **「東京都こどもセーフティプロジェクト」のウェブサイト**において、子供の成長や行動に合わせて「危ないところを変える」という**環境づくりの重要性**や、**都における事故予防の施策・成果等を発信**

- 子育て家庭等に身近なデジタル広告等の活用に加え、**幼稚園や保育所**、**産婦人科・小児科**待合室での広報を実施し、様々な機会を捉え、事故予防に向けた**理解を促進**
- 水難事故など、特定の時期に多く発生する事故等について**動画コンテンツを新たに作成**し、多発する季節に**予防策等をタイムリーに分かりやすく発信**
- 事業者等を対象に、エビデンス・ベースの事故予防策等をテーマに**セミナーを実施**し、子供にとって安全な環境・製品づくりを後押し
- 子供の事故に関して**保護者が求める情報発信等についてアンケート調査**を実施し、結果を普及啓発に活用

日常生活の製品事故を予防（生活文化局）

- 子供の**安全に配慮した商品見本市を開催**し、安全・安心な商品をPR
- 子供の安全に配慮した商品の**顕彰に係る費用を負担**

自転車事故を予防（都民安全総合対策本部） 拡

- 子供が保護者と共に**自転車安全利用について学べるアプリ（輪トレ）を配信**
- 区市町村と連携し、新たに**未就学児・保護者向け自転車安全教室を実施**
- **電動キックボード等の安全利用に関する普及啓発を実施**

交通安全教育を充実（教育庁） 新

- 都立高校において自転車の交通ルールとマナーの周知を図るため、自転車安全学習アプリ**「輪トレ」を活用した出前講座**を実施

安全な通学路を実現（建設局）

- 子供が日常的に利用する**通学路等の交通量抑制**につながるよう、**地域幹線道路等のハード整備を実施**

ベランダ等からの転落事故防止に向けた各局連携の取組

- 東京都出産・子育て応援事業の商品カタログに、補助錠などの安全対策グッズを引き続き掲載（福祉局）

- 「子供を守る」住宅確保促進事業を実施（住宅政策本部）※再掲
- 注意喚起動画「STOP! 子供の転落事故」を展開（生活文化局）

普及啓発

交通事故を予防（警視庁）

- 子供の年齢・発達段階に応じて、交通事故防止のための**教育やシートベルト・チャイルドシートの正しい使用、自転車利用時のヘルメット着用**の普及啓発を実施

製品の事故を予防（生活文化局）

- 消費者及び事業者の情報交流等を通じて、商品等の安全対策に役立てるため、NPOが運営するサイト「**こどものケガを減らすためにみんなをつなぐプラットフォーム**」において普及啓発を実施

乳幼児の事故を予防（福祉局）

- 子供の発達段階に応じて変化する危険な場面を大人が学習できる**事故防止学習ソフト**や、幼児の視界を体験できるチャイルドビジョンなど、**子供目線に立ったコンテンツを発信**

川での水難事故を予防（建設局）

- 都内全小中学校の各学級に**水難事故防止**のポスターを配布

日常生活での事故を予防（東京消防庁）

- 救急搬送データを分析し、**アニメーション動画**や冊子、SNS等により、日常生活における事故防止の普及啓発を実施

学校等での事故を予防（教育庁）

- 子供が危険を予測し回避する能力等を身に付けられるよう、**学校における安全教育を推進**
- 教員向け指導資料「**安全教育プログラム**」**をデジタル版で配信**

救命教育の普及促進（教育庁） 新

- 都内公立中学校において、急病人やけが人の命を守るために必要となる**応急手当の知識や技術の習得**に向けた取組を実施

3か年のアクション（主要）

具体な取組	2025年度末（見込み）	年次計画 2026年度	2027年度	2028年度
セーフティ・レビュー事業	誤飲・誤えん事故をテーマに提言	予防策等を提言（毎年）		
	ウェブサイトを運用	ウェブサイトを活用しながら、事故予防の取組等を普及啓発（毎年）		
事故情報等データベース構築事業	機能の拡充	データベースの利活用促進		
子供を事故から守る環境づくり促進事業	制度検討	支援の実施		

これまでのアクション　子供の事故情報データベース

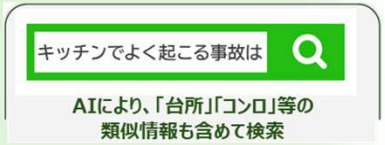
利便性向上に向け、データベースのバージョンアップを進めています！　※2025年度内公開予定

「事故情報を探す」へのAI機能の追加

○ 自然言語検索機能

- **AIが文意・文脈を判断**するため、**話し言葉での検索**が可能

<検索イメージ>



○ 関連度の高い情報の表示機能

- 事故の種別や発生状況、性別・年齢等から**情報の関連度をAIが判定**し表示

<開発中のトップページのイメージ>

情報ライブラリの新設

○ 事例集等の資料や統計データ、動画の検索機能

- **ヒヤリ・ハット事例集**や交通事故**統計**等**の検索・ダウンロード**機能を新設
- 事例集等には**AIによる要約**情報を付与
- データベースを製品開発や研究等に活用する**事業者・研究者等に向け、子供の行動特性を記録した動画**を公開

データベースの普及啓発に取り組んでいます！

- **子供向け製品の開発に携わる方などを対象とした啓発用デザインを作成**し、ウェブサイトやSNS等で広報を展開
- このほか、事故予防に携わる研究者や医療従事者、ものづくり企業等が集まる**学会やセミナーの場での紹介**など、様々な機会を捉え、情報を発信しています

スタートアップと協働し、データベースの利活用を推進

- 都内スタートアップと共に、データベースに掲載している事故情報を活用したサービスの開発を進めています
- 保護者等が、Webブラウザ上で子供のアバターを操作しながら**乳幼児の視力や視界等を体感**することで、**大人では気づきにくい**、生活の中に潜む**事故の危険を探索しながら楽しく学べるサービス**を目指しています

子供の目線で危険をハント
「事故予防体験シミュレーター」

<リビング等を3Dで再現>

<屋外のステージも制作>

これまでのアクション　セーフティ・レビュー事業

「誤飲・誤えんによる事故」をテーマに、エビデンス・ベースの事故予防策（提言）の取りまとめを進めています！

誤飲・誤えんによる事故をテーマにした背景

- 食品等を喉や気管に詰まらせ**死亡・重症化する事故**が毎年のように発生している
- **事故の起因物が多岐に渡る**とともに、子供の**成長・発達に応じて変化**していくため、注意すべき食品・物品が分かりにくい

特 徴

事故発生時の**環境**や**子供の行動特性**についてのエビデンスを収集し、分析

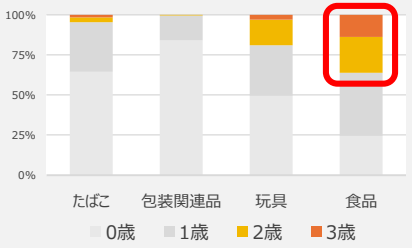
提言に至るまでのフロー

Step1 統計分析 → Step2 アンケート調査 → Step3 インタビュー調査 → Step4 研 究 → 提 言

Step 1　統計分析

救急搬送データから子供（０～18歳）の事故を対象に、傾向を分析

- **住居等居住場所**での事故が最多
- 子供の成長・発達に伴い、たばこ等の「物品」の誤飲よりも「**食品**」**の誤えんの割合が高くなる**

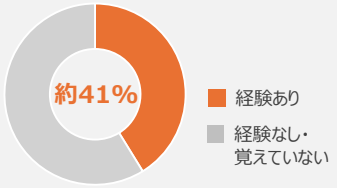


（資料）日常生活での事故による救急搬送に係るデータ（東京消防庁提供）を基に作成　※2020年～2023年

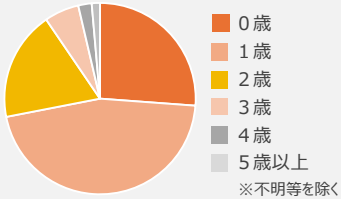
Step 2　アンケート調査

Step１の傾向を基に、保護者を対象にWebアンケート調査を実施

子供が誤飲・誤えんをした・しそうになった経験がある



事故、ヒヤリ・ハットの発生年齢



※不明等を除く

Step 3　インタビュー調査

Step２では把握困難な事故原因等について保護者へのヒアリングを実施

保護者に確認できた事故、ヒヤリ・ハットの状況

- **棚の上の電子タバコ**を掴んで遊んでいた（１歳６か月）

- ポーチを開けて中の薬を取り出し、**錠剤をシートから押し出して**いじっていた（２歳４か月）

- **イチゴを口に入れたまま大笑いし、気管に詰まらせた**（２歳頃）

Step 4　研 究

Step１～３を踏まえ、飲み込みやすい物品の家庭での管理状況を把握するとともに、子供の身体機能等に基づき誤えんのリスクを分析

- **家庭への訪問調査を実施し、リスクの高い物品の管理状況を調査**

部屋全体を３D撮影

リビングやキッチン等を３D撮影し、保管場所の高さ等を画像解析

- **子供の“吸い込む力”を測定し、年齢ごとの吸気能力等を踏まえて食品の誤えんリスクを分析**

専門家による実験の説明

吸気能力測定の様子

- 子供たちに、吸気能力の測定にご協力いただき、実験器具を制作
- 様々な食品のリスクを評価

提 言　科学的手法を基に、提言をとりまとめ

分析・調査・研究結果を踏まえ、事故予防につながる解決方法や安全対策を提言していきます！

誤飲　：本来飲み込まないものを間違えて飲み込んでしまうこと
誤えん：食物などが誤って咽頭や気管に入ってしまうこと

これまでのアクション　東京都こどもセーフティプロジェクトにおける広報

東京都こどもセーフティプロジェクト

防げる事故を確実に防ぎ、子供が安心してチャレンジできる社会を目指し、事故予防の啓発に取り組んでいます！

プロジェクトの専用サイトに加え、SNSや都内の駅構内等での発信により、重層的に広報を展開

SNS等での情報発信

日常生活に潜む子供の“あぶない！”を分かりやすく発信

駅構内での啓発

昨年度制作したポスターデザインを引き続き使用し、多くの人の目に触れる場所に掲示

<新宿駅での連貼りポスター>

<都営地下鉄駅での掲示>

各局等と連携し、時宜を捉えたタイムリーな情報発信を実施

5月、10月

ベランダ等からの**転落事故が多い時期**に、生活文化局の**注意喚起動画を活用し、分かりやすく予防策を発信**

5月～9月

今年の夏も 沸とう京 ×

環境局等と連携し、「今年の夏も**沸とう京　“熱中症”から命を守る行動を！**」のメッセージとともに、**熱中症予防の普及啓発**を実施

11月

ウェブサイトに特集記事を公開

こども家庭庁の乳幼児突然死症候群（SIDS）対策強化月間に合わせ、**睡眠中の子供の事故に関する予防策等を発信**

SNSでの反応や、いただいたお問合せ等

- 日常に潜む子供視点の“危険”が直感的に伝わり、ハッとさせられた
- ポスター画像や動画を院内のスクリーンに映すなど、事故予防の啓発に活用したい
- 事故予防に関する研修で、子供の事故予防ハンドブックを使わせてほしい

※SNSの投稿や実際にいただいた声に基づいて記載